

テーマ：喜んで与える者としてますます成長していく

○歴史的背景：パウロとコリントの教会

※2 コリント 9:1-2

「聖徒たちのためのこの奉仕については、いまさら、あなたがたに書き送る必要はないでしょう。私はあなたがたの熱意を知り、それについて、あなたがたのことをマケドニアの人々に誇って、アカヤでは昨年準備が進められていると言ったのです。こうして、あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させました。」

※2 コリント 9:5

「そこで私は、兄弟たちに勧めて、先にそちらに行かせ、前に約束したあなたがたの贈り物を前もって用意していただくことが必要だと思いました。どうか、この献金を、惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意しておいてください。」

○喜んで与える人へと成長する：六つの動機

1. 喜んで与える人は神様からの_____を期待できる(6)

※2 コリント 11:27

「勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。」

※箴言 11:24-25

「ばらまいても、なお富む人があり、正当な支払いを惜しんでも、かえって乏しくなる者がある。おおらかな人は肥え、人を潤す者は自分も潤される。」

※箴言 19:17

「寄るべのない者に施しをするのは、主に貸すことだ。主がその善行に報いてくださる。」

※ルカ 6:38

「与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらいます。」

「種蒔きをする時、種は手で蒔かれ、地面のあちこちに散らされ、くわで耕され、しまいには腐ってしまう。こうして、種はまるで無くなってしまったかのようにみえる。施しについても、まったく同じことが言える。あなたから他の人のものとへ出ていくものは、それだけあなたの財産を減らしているように思える。しかし、刈り入れの時が来れば、その実を取り入れることができるのである。…この教えを私たちの心の内で深く根付かせなければならない。そして、肉の思いが失うことを恐れ、善を行うことから私たちを遠ざけようとする場合には、すぐにこの盾をかざして、そのような思いから自分の身を守らなければならない。--『しかし、主は私たちが今、種蒔きをしているとはっきりと述べておられる。』」

(ジョン・カルヴァン)

2. 喜んで与える人は神様に_____ (7)

●惜しみなく捧げること：五つの原則

1) ひとりひとり

2) いやいやながらでなく

3) 強いられてでもなく

4) 心できめたとおりに

※1 コリント 16:2

「私がそちらに行ってから献金を集めるようなことがないように、あなたがたはおのおの、いつも週の初めの日に、収入に応じて、手もとにそれをたくわえておきなさい。」

5) 喜んで

※2 コリント 8:1-4

「さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。」

○まとめ